
エブリシング ドクター ドリトル

西宮尚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エブリシング ドクター ドリトル

【Nコード】

N2162C

【作者名】

西宮尚

【あらすじ】

20XX年。動物の言葉を翻訳する機械が開発された。動物愛護団体は、その翻訳機が存在を喜び、動物の待遇向上を考えて政府に働きかけた。そのため、全てのペットに翻訳機をつけることが法律で決められた。ショートショートSFです。

20XX年。

動物の言葉を翻訳する機械が開発された。

動物愛護団体は、その翻訳機が存在を喜び、動物の待遇向上を考えて政府に働きかけた。そのため、全てのペットに翻訳機をつけることが法律で決められた。

その後、ペットと人の間に発生した問題を以下に記す。

ケース1

OL：私の何が気に入らないっていうの！

ペティ：気の向いた時だけかわいがって、後はほったかし。餌だけあげてりゃ生きてるよって態度が気に入らないんだよ。

OL：仕方ないじゃない。私は仕事もあるし、疲れている時だつてある。それを癒すために

ワンちゃんを飼ったのに…

ペティ：ほら、その言葉使いもシャクにさわる！ ワンちゃんだと！ 名前だつてペティ

なんて軟弱なのを付けやがって。俺は男だ！ もっと男らしい扱いをしろ！

OL：それだと、私がペットを飼う意味がなくなるわ。私は犬を思いつきりかわいがりたいのよ。

ペティ：だったら、他の犬を飼え！ 俺と一緒にいる意味はない！

OL：ペティ何故なの。こんなかわいいトイプードルちゃんが、どうして、こんなに男っぽい

の！

動物愛護員：見た目は関係ありません。あなただって、見た目は

こうなのに、中身は全然

違ったなんて言われると怒るでしょう。それと同じことが、このペティにもお

こつといると思ってください。

ペティ：とにかく、俺はお前と一緒にいたくない。

OL：ペティ！ それを言わないで。

動物愛護員：了解しました。このペット組み合わせは失敗と判断します。

よって、飼い主からペティを取り上げ、今後ペティの新しい飼い主を探すことにします。

ペティ：ペティはやめろって！ 新しい名前は「ジョン」とか男の名前がいいなあ。

OL：ああ、ペティ、ペティ…（泣）

ケース2

主婦：うちの猫、こんなひどいこと言うんです。とにかく、もう一緒にいられません…

ミーシャ：なんだど、このババアめ。

主婦：ほら、もう嫌になります。

ミーシャ：ババアにババアと本当の事を言ったまでだ。

主婦：とにかく、この猫と一緒にいても、全然くつろげません。むしろ疲れてしまいます。

もう、一緒にいたくありません。ペット関係を解消したいです。

動物愛護員：了解しました。このペット組み合わせは失敗と判断します。

よって、飼い主からミーシャを取り上げ、今後ミーシャの新しい飼い主を探す

ことにします。

主婦：あー、これですつきりしたわ。

ミーシャ：こっちだって、せいせいしたよ。

動物愛護団体は、さながら、ペットと分かれるための離婚相談所、相性の良いペットを見つげるための結婚相談所となった。

そして、見た目も性格も良いペットは、すぐにも飼い主が見つかったが、性格の悪いペットはいつまでも飼い主は現れなかった。

ペティやミーシャ、なかなか貰い手のないペットたちは動物愛護団体の部屋で話あった。

動物愛護団体は業務で忙しくなり、ペットたちの世話は、最低限しか行えなかった。

「ペティ。お前、見た目がかわいいから、ちょっと猫かぶれば、すぐ飼い主が現れるんじゃないかな

いの？」

「やなこった。俺は犬だけ。猫かぶるなんて出来ねえや。」

「そんなふうには、頑固ジジイみたいな性格だからもらってもらえない。」

「お前だって、その毒舌をやめれば、飼い主が出来るぞ。」

「ふん。俺の猫舌は毒舌なんだ。猫をかぶって飼い主が出来たって、すぐ化けの皮がはがれ

まう。」

「俺だってそうだよ。飼い主が出来るのは、猫をかぶるのが上手い奴ばかりだ。」

「このままだと、俺たち一生、この部屋で過ごさないといけないぞ。」

「それものこれも、こんな翻訳機が出来たせいじゃないか。」

「そうだそうだ！」

一方、飼い主たちも悩みを動物愛護団体に訴えていた。

「近頃、ペットを飼っても、全然癒されないんです。」

「あれしるとか、これが欲しいとか。うるさい主人が一人増えた感じなんです。」

「うちのペットは、外面だけ良くって、影で悪口を言っているんです。もう嫌。」

「ペットから何を言われるのか、ビクビクしてしまいます。」

「こんなことになったのは、あの翻訳機のせいじゃない。」

「そうだそうだ！」

そして、ペットたちも、悩みを動物愛護団体に訴えはじめた。

「ちよつと餌が良くないって言っただけなんだよ。それだけであるに怒られるなんて。」

「変な服着せられて、おしゃれなカフェなんか連れていかれて…僕はもつと自然に生きたい

のにそれは許されないんでしょうか？」

「飼い主が盗聴機を付けたんです。神経磨り減って、毛皮が脱毛し始めました…」

「こつなつたのも、あの翻訳機のせいじゃない。」

「そうだそうだ！」

動物愛護団体は、仕事が増えて疲れ果てていた。

「今日も忙しかったな。」

「離ペット相談の話の話を聞いてると、人間の離婚問題と変わらないから、気が滅入るよ。」

「結ペット相談だって同じだよ。ペットはより待遇の良い飼い主を選び、飼い主は性格と外見

の良いペットを選ぶ。愛情よりも利害が一番になってきて、心がすさむよ。」

「もらい手のないペットに餌をやりに行ったら、さんざん待遇改善を訴えられたよ。」

「飼い主も、ペットも文句ばかり言いやがって。」

「こんなに、忙しくなるなんて、あの翻訳機のせいだ。」

「そつだそつだ！」

かくして

法律は撤廃させられた。

動物の言葉がわかる夢の翻訳機はその後、永遠に使用されなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2162c/>

エブリシング ドクター ドリトル

2010年10月9日06時18分発行